

シブソンパンナ、茶馬古道、援蔣ルート¹の戦跡を訪ねて

秋畑 進

開発中の地域、17年前まで外国人に開放されなかった地域を目の当たりにし、林学専攻の同行者やガイドから学び、驚きと疑問を感じながらの旅でした。短期間に約1700キロ、車で移動したので、現地の人と接点をもつことが少なく、見聞録です。連なる盆地世界は奥深く、一回の調査ではまとめられません。既成概念にとらわれずに、照葉樹林・少数民族・戦争の出来事を **KEYWORD** として、情報と生態システムの視点から撮った写真を **BOOKMARK**(しおり)のようにして紹介します。

シブソンパンナ

景洪：漢族が入植して新たに造った町。標高500m台。

Fig1.熱帯植物園：孟力侖²。中国科学院研究所があり、1999年に一般公開。1958年創立、広さ900ヘクタール、現在70人の科学者、60人の庭師、40人のスタッフが働いている。各国の植物を移植、1万種以上の植物がある。秋篠宮夫妻が1998年8月7日に黒檀の木を植樹された時の記念碑がある。

Fig2.イ泰族園：お寺は800年の歴史があり、文化大革命では牛小屋として使われていた。イ泰族の伝統的な家にも秋篠宮夫妻が寄っており、皇太子と書かれていた。寝室には魂があるので覗いてはいけなかった。蚊帳の色が年寄りには黒、新婚は赤、子どもは白。

Fig3.民族風情園：1987年設立。革命烈士永垂不朽：1950年に国民党と共産党が覇権を争い100名戦死したことの開放記念塔がある。ほかゾノ族、ハニ族、プーラン族の家で民族衣装を着たガバ³から説明を受ける。

Fig4.原始森林公園：シブソンパンナ大橋を渡り東に8キロ。動物ショー、孔雀が舞い降りるシーンあり。竹を巧妙に編んで出来た遊歩道を歩き、30m以上ある樹木を仰ぎ見ながらの周回コース。

Fig5.普洱茶屋「恒盛祥」：茶馬古道の案内と実演。お湯を入れて3回捨ててから飲む。150年物は故宮博物院に保管されている。6年物と2年物を飲む。小さい湯飲みで10回、3,4回目が飲み頃。3日もつ。

参考文献：1.「盆地世界の国家論」加藤久美子・京都大学出版会：2000年
2.「西双版纳」北山昌夫編著・三一書房：1997年

茶馬古道

Fig6：茶馬古道は広大な盆地を巡り、昔は馬が通る道で勾配8度、今の道路は勾配5度。茶を馬に乗せて3ヶ月運ぶ内に雨にぬらしてしまい、倉庫に捨てていた。ある労働者が飲んでみると、美味しいとわかり普洱茶となった。普洱は交易地として発展、ブランド名になり、今は昆明が取引センターになっている。普洱茶を使ったバター茶は糖尿病に効く。

Fig7：思茅—馬洗河公園 1958年3月、軍隊がダム建設して飲用と農業用に使用。高度1300m。湖面に諸葛孔明軍が馬を洗った故事からの作品が、湖畔に諸葛孔明像がある。

Fig8-9：普洱ハニ族イ族自治州 イ族：総人口657万('90時点)黄河上流地域が発祥地。一部が南詔王国建国。土間形式の平屋根木造家屋に住み、主食はツンパ（炒った麦粉を水で練ったもの）でベトナム族の食習慣に近い（中国少数民族事典より）。伝説によると3000人の男と2000人の女が経典を持って日本に渡っている。

Fig10：古城 人口5万人。若者が水パイプを吸っていた。

Fig11：景東 町の近くに金山があり、豊かな雰囲気。新才无川に沿って北上する。

Fig12：下関 人口30万。ビルマ国との関所だった。犬肉料理店あり。

Fig13：大理ペー族自治州 ペー(白)族：総人口約160万、自治州に80%が住む。モンゴル軍に負けるまで南詔国を支配、少林寺拳法が強い。唐時代に漢族と戦っており、3万人の捕虜が出た。藍染めが得意。翡翠を魔除けとして使っている。白色が好き。建築技術が優れる。(写真左の門参照)

保山：人口85万。日本軍の生物兵器によりペスト菌が蔓延、25万人が亡くなったところと言われている。公園に立つ滇西抗日戦争記念碑には日本軍が中国本土に侵略してきた歴史を綿々と彫っていた。

Fig14-5：蒲缥鎮 蒲は川辺、缥は山を意味する。盆地の中、新石器時代の遺跡が残る歴史的な町。7,8000年前、狩猟民族のワ人とヒョウ人が住んでおり、今はリス族になっている。豹をかかえて槍を持つ蒲缥人銅像が立っていた。茶馬古道の橋から梁金山（恵通橋資金提供者）の生誕地へ行く。金鉱を掘り当てて財をなした190cmの偉丈夫だった。17人の子どもの内、5番目の夫人の娘が墓まで案内してくれる。

参考文献：「東ユーラシアの生態環境史」上田信・山川出版社2006年

援蒋ルート of 戦跡

騰冲(越)：翡翠の宝飾加工地でビルマとの交易地だった。

Fig16：和順郷 人口1万6千、華僑の故郷。イギリスから取り寄せた扉がある建物の中央上に「文治光昌(文化で治める)」と書かれている。日本軍は、ここに日本人留学生がいたせいもあるが、ここを戦場としなかった。蔵書4万冊、滇時代からカードで検索できるようにしていた。Peaceと書いた爆弾の弾倉を土台にした、鳩二羽が停まった十字架像(十字架は希望、鳩は平和を象徴)。戦争博物館には当時の外套、革靴、鉄兜、五分の一軍事地図、防毒マスクなど展示。イギリス軍は中国遠征軍を前線に出して戦っていた。

雲南西部地区の戦死者28427人、ペスト・飢餓死92354人。インドからのルートはヒマラヤ越えて飛行機も氷ってしまい、美国500機が損失している。

Fig17-18：来鳳山 2億3千年前に火山爆発で出来た山。1827年、頂上に塔が建てられ、2000年6月再建。13階208段。塹壕や大砲で削られたところが残っている。

Fig19-20：国傷墓園 門から入って直ぐ右手に日本軍兵士の墓「倭塚」。蒋介石を祀ってい

るところを進むと左手に 19 名の米軍兵士、中央に中国遠征軍の戦死将校 20 名の墓。上等兵の墓から順々に位が上がった兵士の墓があり、丘の頂上に軍兵士を民族英雄として称える塔が立っていた。

Fig21：恵通橋への道 サウキビ畑が続き、砂糖工場の脇を走る。バナヤコーヒー栽培の畑もあり、のどかな風景の中をゆっくりと走っていくと怒江が眼下に見える。対岸に針卷山。

Fig22-23：恵通橋 2 年前、がトが案内した遺族は太鼓を叩いて霊を呼んだ。碑は 1993 年 11 月 16 日建設。最初は 1935 年建設、1938 年修復後、1942 年 5 月、日本軍を通さないよう遠征軍が破壊、1944 年 9 月には修復して松山戦に向かった経緯がある。

Fig24：拉孟 住民が家の奥から日本軍の刀、銃剣、不発弾を持ってきて見せる。

Fig25-27：松山主戦場跡 1986 年 5 月 24 日建立の碑「1944 年 8 月 20 日から遠征軍第 8 軍が総攻撃、9 月 7 日日本軍最後の拠点をと落としたが惨烈を極めた」。1990 年以降、日本人に開放されてから 56 師団の主な出身地福岡県の人が良く来る。両軍が死闘を続けている間でも貯水池は共用。音部山の下、弾痕がある大木、松林の塹壕や爆弾で削られた跡を見る。

Fig28：慰安所跡 公路から少し離れたところにあった。

Fig29-30：龍陵 盆地は余り高い山に囲まれていない。ここで日本軍は 2 回にわたり、中国遠征軍と戦うが、30 対 1 以上の兵力差があり、必勝の態勢と必勝の信念、大和魂の戦いで玉砕する。

Fig31-32：龍陵抗日戦争紀念館 龍陵会戦勝利 60 周年を記念した建物。梁金山、遠征軍、義勇軍、日本軍の様子、従軍慰安婦の写真を展示。現地がト趙さんは数年前 82 歳の韓国人慰安婦に会っている。松山から龍陵にかけての戦死者は遠征軍 28384 名、日本軍 13028 人。館外にトチカ（咽喉要塞）、会戦の経緯を書いた掲示版あり。道路に近い所にある岩には赤く「国恥勿忘」と書かれていた。

Fig33：畹町鎮 高度 830m、税関や免税店があり、橋を渡ればミャンマーのチンゴッ。滇緬公路がバモを經由してイトに至る道とマダレーを經由してアグマン海に出る道との分岐点。

Fig34：瑞麗 人口 12 万。自由市場は景洪の市場に似ていて温かい。イ泰族が多い。

Fig35：三台山 滇西抗日戦争紀念碑。石畳道路の脇に立ち、碑の裏には 1944 年 8 月、日本軍が芒市地帯での戦いに破れ、三台山まで敗走、更に一戦交えていた旨書いてある。

Fig36：芒市(潞西)・菩提寺 お経を書いた旗が何本も高く翻っていた。漢族と泰族の建築様式を融合した三層からなる堂は明時代の創建、1982 年に再建。境内の隅では鐘代わりに砲弾を使っていた。

参考文献

1. 「断作戦」「龍陵会戦」古山高麗雄・文芸春秋
2. 「B29 戦略爆撃隊を壊滅せよ」(所収：あゝ騰越玉砕記・吉野孝公)光人社 1992 年
3. 「我が雲南、ビルマ戦」薬師丸章・海鳥社 1989 年
4. 太平洋戦争写真史⑦「フーコン・雲南の戦い」森山康平編・月刊沖繩社 1984 年
5. 「戦史叢書・イワツ会戦」防衛庁防衛研修所戦史部・朝雲新聞社 1969 年

第三回フィールドワーク日程 (2006.10.23-11.6)

- 1 : 10月23日(月) 成田、中部～バンコク～チェンマイ 18:25
- 2 : 10月24日(火) チェンマイ 13:40～景洪 16:10 : 金鳳賓館
- 3 : 10月25日(水) 景洪 : 孟力牢農貿市場、孟力侖熱帯植物園、ゴム林、傣族園
- 4 : 10月26日(木) 景洪→景東 : 蘭都飯店
思茅 : 洗馬河公園、普洱・レストラン「雨軒風景園」・イ族、古城
鎮元 : 回族の家(ウダツ)
- 5 : 10月27日(金) 景東→大理→保山(永昌) : 蘭都飯店
新才无川、ユーカリ植樹、下関、大理・ペー族レストラン「阿達音」
大理古城、博南古道利民橋
- 6 : 10月28日(土) 保山 : 臥仏寺、公園 : 滇西抗日戦争記念碑、太保山公園・武侯祠 :
諸葛孔明像
- 7 : 10月29日(日) 保山→騰冲(衝) : 錦程大酒店
蒲缥鎮、茶馬古道の橋、梁金山の生誕地、怒江大橋
- 8 : 10月30日(月) 騰冲 : 和順郷、来鳳山、国傷墓園、熱海
- 9 : 10月31日(火) 騰冲→龍陵 : 龍陵賓館
恵通橋、拉孟、松山 : 主戦場跡、慰安所跡、記念碑「滾龍坡」
- 10 : 11月1日(水) 龍陵→芒市(潞西) : 中玉賓館
龍陵抗日戦争記念館、トーチカ(咽喉要塞)、畹町鎮、瑞麗、
三台山 : 滇西抗日戦争記念碑
- 11 : 11月2日(木) 菩提寺 : 芒市 14:30～昆明 15:25 : 金龍飯店
- 12 : 11月3日(金) 昆明 : 中国科学院昆明植物研究所、西山森林公園
(w/中国科学院昆明植物研究所客座教授 吉野熙道夫妻)
- 13 : 11月4日(土) 昆明 10:50～景洪 11:40 民族風情園 (革命烈士永垂不朽・開放記念
塔、ジノー族、ハニ族、プーラン族)
- 14 : 11月5日(日) 景洪 16:50～チェンマイ 17:20
原始森林公園、普洱茶屋「恒盛祥」
- 15 : 11月6日(月) チェンマイにて解散。

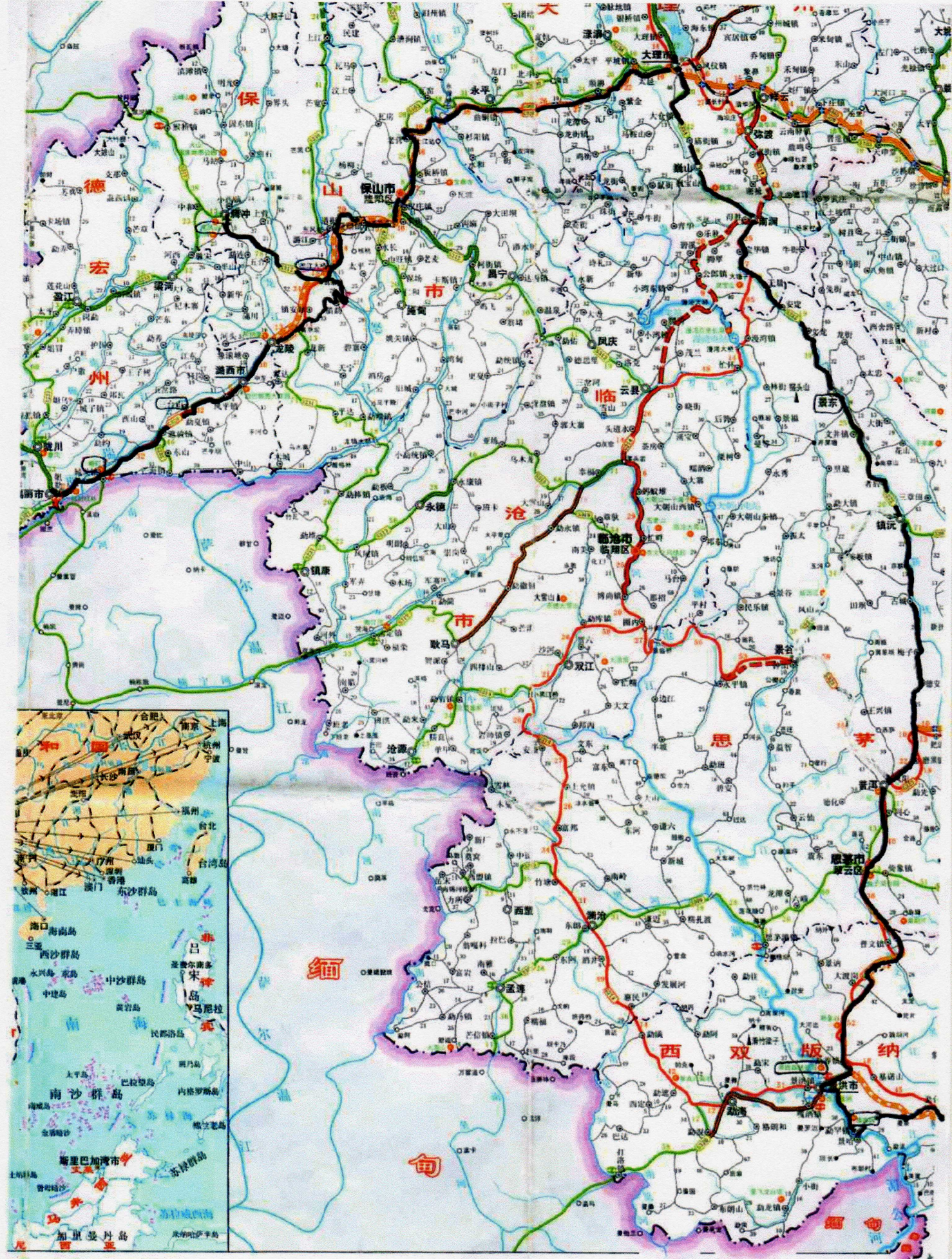
※ 参加者 : 亀田義憲、渡辺裕之、前田栄三、泉谷洋光、本郷一雄、秋畑 進

※ 総合ガイド : 李雲山

※ 大理→保山→騰冲 : 博南古道(西南シルクロード)

大理→保山→龍陵→瑞麗 : 滇緬公路 (昆明とビルマ 臘を結ぶ交易路)

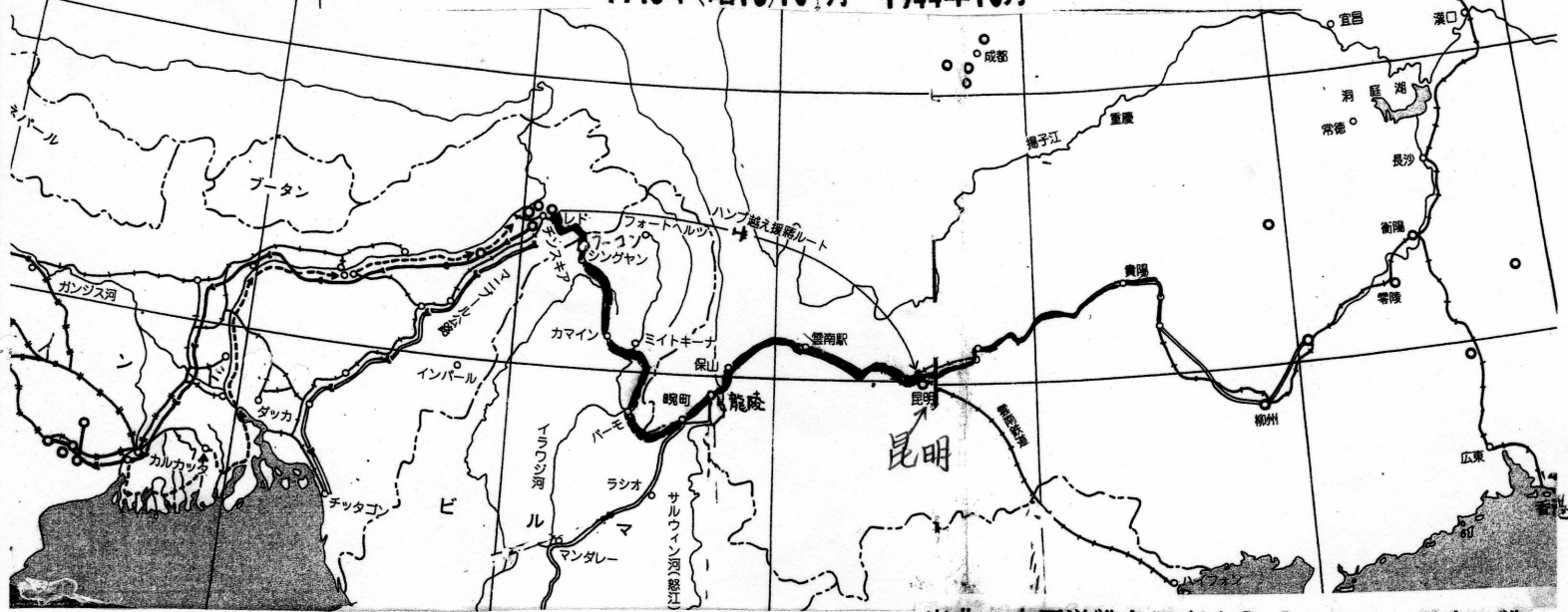
: 援蒋ルート (蒋介石国民党を支援するために連合軍が物資を運んだ道)



云南旅游交通图 科技出版社

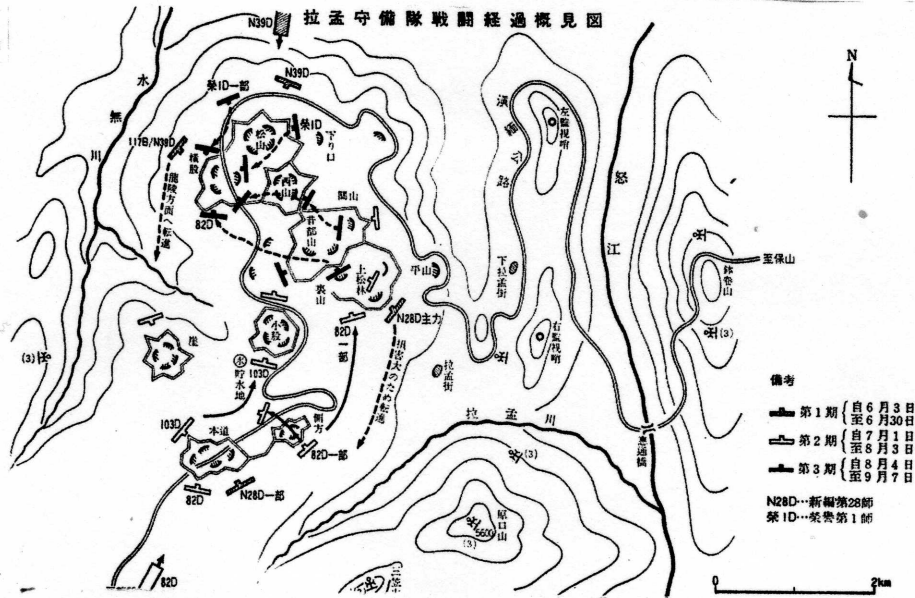
インドービルマー中国にまたがる援蔣ルート

1943年(昭18)10月~1944年10月



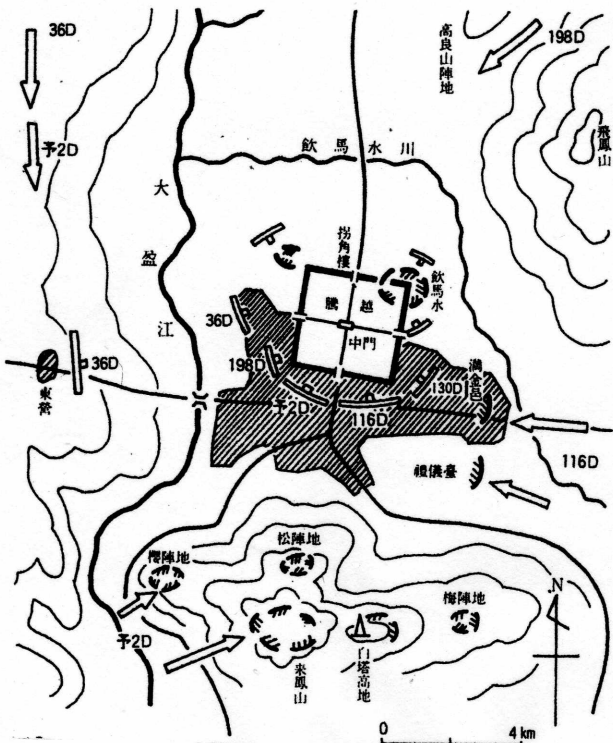
出典：太平洋戦争写真史⑦「フーコン・雲南の戦い」

松山



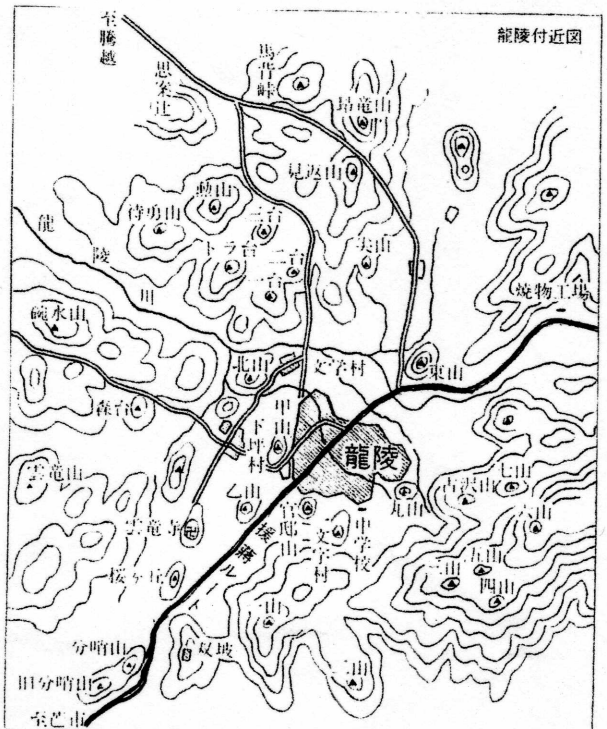
出典：「戦史叢書・イラワジ会戦」

騰冲



出典：「戦史叢書・イラワジ会戦」

龍陵



出典：「我が雲南、ビルマ戦」

シブソパンナ・茶馬古道



Fig1 熱帯植物園



Fig2 泰族園



Fig3 民族風情園



Fig4 原始森林公園



Fig5 恒盛祥



Fig6 茶馬古道



Fig7 馬洗河公園

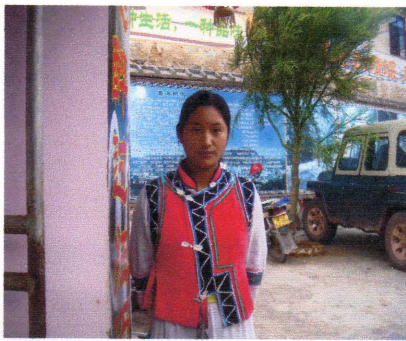


Fig8 雨軒風景園



Fig9 茶畑



Fig10 古城

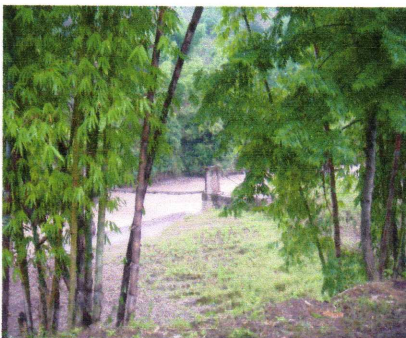


Fig11 新イ死川

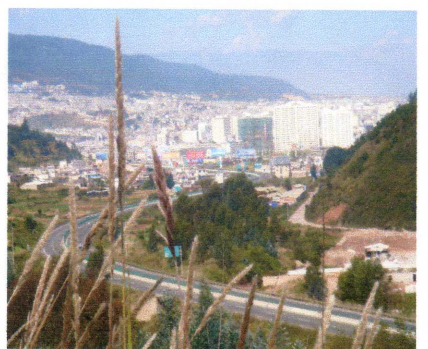


Fig12 下関

大理→騰冲→拉孟



Fig13レストラン「阿達音」



Fig14蒲缥鎮



Fig15蒲缥人



Fig16和順鄉

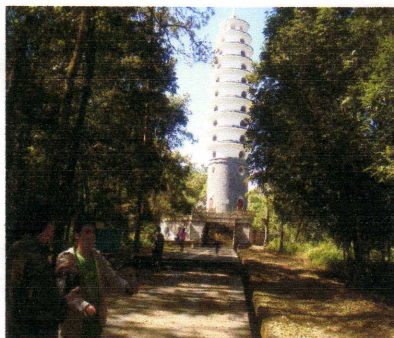


Fig17来鳳山·文笔塔

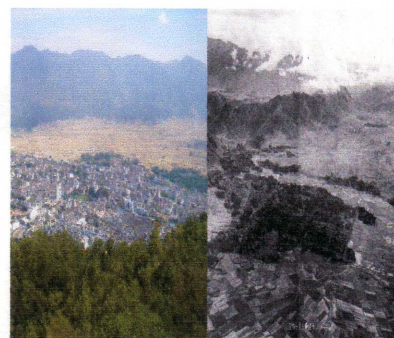


Fig18騰冲



Fig19国傷墓園



Fig20遠征軍兵士墓



Fig21針卷山

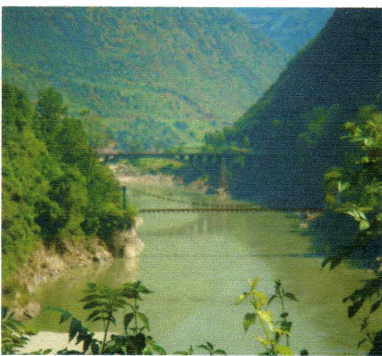


Fig22怒江



Fig23惠通橋



Fig24拉孟

援蔣ルート of 戦跡



Fig25 松山



Fig26 弾痕のある木



Fig27 塹壕

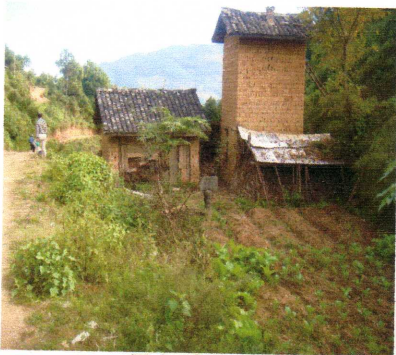


Fig28 慰安所跡



Fig29 龍陵西部



Fig30 塹壕掘り
NHKスペシャル' 04.8.13



Fig31 抗日戦争纪念馆

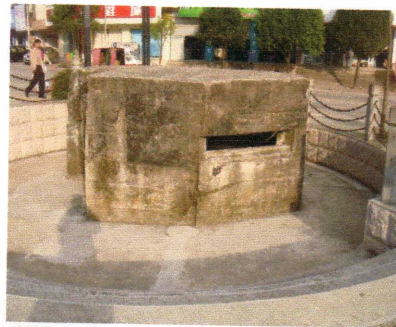


Fig32 トーチカ



Fig33 畹町鎮



Fig34 端麗・自由市場



Fig35 三台山



Fig36 芒市・菩提寺